

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2170700476 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 和光会 | | |
| 事業所名 | グループホーム「ファミリーケア北方」(ユニット1:北の家) | | |
| 所在地 | 岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年12月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年3月5日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 基本情報リンク先 | http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2170700476&SCD=320 |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成22年1月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者福祉に対する配慮が地域のどこに行っても当然のように受けられ、認知症に対しても様々な人達が理解を深められるよう地域に開かれたサービス、又地域住民との交流の元に福祉に対する理解の向上に努め、地域の一部となれるよう活動して。具体的に、ボランティア活動の提供の場として、毎月一回ボランティアの方による映画観賞会、音楽療法、地元の高校生によるアニマルセラピーを実施。入居者には馴染みの映画や最近話題の映画が見られる、季節の歌を歌うことで季節を感じられる、高校生や動物とふれあえる等楽しみにされている。又、自治会や民生委員の皆様の御協力で地域の行事に参加させて頂き、入居者の方々が積極的に地域に参加できるような機会を作ることにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体としたこのホームは、病院や看護師と連携し、利用者の体調管理には万全の配慮がある。遠くには金華山も眺められ、夏の花火大会もホームの窓から見る事ができる。管理者はホームの運営やケアの内容について、安易に現状を容認するだけでなく、常に疑問や改善意識を持ち、若いユニットリーダー達や職員が気持良く支援できるよう日々心配りをしている。近隣の農林高校での動物との触れ合いの際は、生徒が利用者の案内を行い、利用者との心の触れ合いの場ともなっている。また、ホーム内にサロンを設け、子供連れの母親同士が交流できる場の提供も行い、地域福祉の向上に今後活躍が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価票(ユニット1:北の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し遂行できるようにしている。 | 法人理念に加え、住民との交流を重点に置いたホーム独自の基本方針が作られ、地域密着型であることを鮮明に打ち出した理念となっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 子供110番の設置、小学生のボランティア受け入れ等日常生活の中で子供が遊びに来やすい場を作る。又、自治会長の支援により地域活動に参加。地域の方々から畑を開放して頂きみかんやつくし狩り。祭りや運動会等地域イベントへの参加。 | 町主催の運動会や祭りでは、地域住民と利用者が交流している。管理者や職員の努力により、ホームに来てもらうことから、利用者が少しずつ地域へ出かけ、受け入れられるようになり、子供と母親が集まる場所の提供も行われるようになった。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で北方の理念の報告、各種外出行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在の入居者状況、事業所独自の活動を報告。意見を求め、今後の取り組みを検討。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動への参加、各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。 | 2ヶ月に1度開催され、行政や地域包括支援センター、民生委員、奉仕団、また、家族も順番に参加し、活発に様々な意見が出され、サービスの向上に繋がっている。また、新規事業の報告には、住民から喜びの声が多く上がり、複合施設としての役割が地域に根付いている。 | 今後も、地域における事業の展開に、おおいに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。 | ホームと町との連携は適切に行われ、情報交換や相談を通して、常に新しい情報の収集に努め、事業所の質の向上へと繋げている。 | さらに、地域の福祉にかかわる法人として、町全体の福祉の向上の牽引的存在としての取り組みに期待したい。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員全員が拘束については、最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。 | 玄関は常に開放されており、見守りによって出て行く人には職員が付き添うよう支援をしている。また、法人内外の研修に参加の機会を多く持ち、拘束は利用者の自由を阻止することであると全職員が認識をしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 顧客満足度調査を行なうことにより、苦情や希望を聞き対応している。又、重要事項説明書にて公的窓口を紹介し案内している。その他、契約時に説明を行い、玄関先に苦情受付ボックスを設置している。来所時にはご家族へこちらから声を掛け、話ができる雰囲気作りをしている。 | 家族アンケートを無記名で取り、その結果を踏まえサービスの質向上へと繋げている。苦情箱も設置してあるが、家族の訪問時に要望を聞くなどの配慮をしている。ホーム便りと共に個別便りを毎月送り、利用者の様子を知らせ、家族の安心感を得ている。訪問の少ない家族には、電話で知らせ、その内容も個別に記載している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティング等、各職員に説明し、職員の運営に対する意見が出来るようにしている。 | ユニット会議やリーダー会議は毎月行われ、利用者の担当者から報告され、全職員が周知できるよう情報を共有している。管理者は、職員の様々な相談に乗ることを心がけ、日々気持ちよくケアに当たることができるよう細かい配慮をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人グループにある、もう一つのグループホームとの共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作る。本人自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願い、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(パワーリハビリ等)を提供する。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者で過ごす時間を大切に、その場の状況に応じて互いの理解を深め、関係を築いている。又、子供とふれあう行事を企画し、利用者が教える立場になり、子供達と交流を持つ機会の場を提供した。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に日頃の様子をご家族に報告。本人の現状を知って頂き、今後の方針を一緒に考えていく。都合により面会が困難なご家族には、月に一回は電話及び手紙を出し近況報告をしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出の際に馴染みの場所に寄り、昔を思い出して頂く。又、面会者への心くばりを行うことで、雰囲気作りに努める。 | 利用者に思い出の場所を聞き、毎年桜を見る場所・おいしい物を食べた店・映画・温泉などへ個別に出かけられるよう支援をしている。ホームに帰ってもその時の思い出話を職員と交わし、職員も共に楽しみ、利用者の心に寄り添ったケアを行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の配置や趣味の合う仲間作りを支援することでより良い関係作りが出来るような場所を提供し支援している。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者やご家族に、可能な限り北方での行事や法人内での行事に参加して頂けるよう連絡や通知を行なう。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式からの情報、本人の呟きやふとした仕草から把握に努めるようにしている。困難な場合はご家族にこれまでの状況を聞き、本人の気持ちになり考える。 | 日々の小さな気づきや利用者の好みなどを個別ノートに記載し、その内容を介護計画の作成にも役立てている。担当者制となっているが、どの職員も全利用者の状態を把握できるように配慮しており、本人から聞きとれない場合は家族から聞き、常に本人主体の生活ができるよう支援をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との日常会話やご家族の面会時に、昔の話を聞いて把握に努める。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の記録に残し、職員全員が現状の把握が出来るよう努める。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人やご家族に意見を求め、その後ユニット内でのカンファレンスにて課題、ケアのあり方について話し合い、介護計画作成にいかしている。 | 担当者によって本人の希望や家族の要望が加えられ、利用者主体の介護計画が作成されている。家族と離れて暮らす利用者の心に添いつつ、ホームの生活がより良いものとなるよう、管理者以下職員は日々支援を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の個別記録をカルテへ記入し、全職員が情報を共有している。その情報を介護計画見直しの際にいかしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 近隣に病院等連携施設があり、利用者の身心の状況等に合せて柔軟なサービスに努めるようにしている。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家庭菜園の手伝い、行事(落語研究会、大正琴等)の受け入れ、それに対する働きかけを行っている。近隣商店への買い物や、防災体制の構築の為に各機関(消防署等)との連絡も出来ており、地域防災協会にも加盟している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。 | 医療法人が母体であり、週1回の往診がある。その他、年に1度の定期健診、月～金曜日は看護師の訪問があり、健康面の管理にも細かく配慮している。歯科の往診もあり、その他の受診は家族が行うが、急変時や必要時には職員が同行している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり看護職との連携、相談が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり、DrやNsとも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 日頃から利用者の身心の異常の変化についてはご家族に連絡を行い、かかりつけ医及び法人内の病院のDr等と話し合うように努める。 | 母体が医療機関という利点を活かし、管理者は利用者の重度化は避けて通れない問題であることも認識しているが、医療行為が必要な利用者には他施設や病院への転出を依頼している。必要時には主治医・家族・ホームで、利用者にとって一番良い方法を話し合う体制をとっている。 | 重度化や終末期のケアを行わない方針であっても、そこに至るまでには様々なケースが考えられる。入居条件の判断基準を明確に決め、家族との同意書や繰り返しの説明を行い、マニュアルの作成など全職員と話し合い検討されたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内のNsの指示のもと、月に一回、医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもと実施。又、事業所での委員会を設置し、訓練等に職員の参加を働きかけている。利用者も共に訓練に参加して頂く。 | 前回の改善課題であったこの項目の取り組みとして、近隣のアパート住民には災害時の協力を依頼できるよう挨拶から始める働きかけを行っている。年に2回の訓練は利用者も共に参加し、食料・飲料水を倉庫に備蓄し、災害時に備えている。 | 防災に対する職員の意識と認識を高めることは、利用者と家族のみならず、働く職員の安心感にもつながることから、通常の訓練に加え、緊急災害時の初動体制・持ち物・避難経路・家族への説明方法などの確認を行う等の取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日頃より、尊敬の念を持って対応している。 | 入浴・トイレ・着替えなどの際には、本人の好みや能力を把握し、声かけなどさりげない支援を行い、言葉遣いにも注意を払って利用者の尊厳を守るよう職員間で認識している。個人情報に関しては法人内に品質保証室が設けられ、万全の配慮が施されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃より、担当者を中心にコミュニケーションを図っている。難聴の方には筆談を行う等、利用者の状態に合わせて希望を聞く工夫をし、自己決定の支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースや希望を把握し、会話の中より一日一日をその人らしく生活出来るよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容に関しては、利用者やご家族の希望を尊重している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居時に嗜好調査を実施。日々、利用者と共に食事をし、その会話の中から好みを聞くよう努めている。又、準備や片付けも利用者の個々の能力に合わせて共に行っている。 | 3つのユニットではそれぞれ違うメニューが提供され、食材の買い出し・献立・盛り付け・後片付けなど、利用者と職員が相談し合って、合同で行っている。体調や好みによって柔らかさなどにも配慮し、摂取量も記載し、利用者の体調管理にも心配りをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 5色健康法(食事に白、黒、赤、黄色の食べ物を取り入れること)を実践している。又、法人内の栄養士の指導を受けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを促している。必要な利用者には介助を行い支援する。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別に排尿チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。 | 個別に排泄確認票を作成し、利用者の自立度が下がらないよう配慮をしている。夜間も職員によるトイレ誘導や配慮があり、入居当初と比べても排泄の自立度はほぼ維持されている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便はチェック表を確認している。普段から水分摂取に努め、便秘時は食物繊維を摂る等の対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者の要望に合わせて入浴時間を調整。日中の入浴を希望されている。入浴の順番はその都度利用者の都合に合わせて入浴して頂いている(基本的に月、水、土) | 週に3回の入浴は、好みによって午前と午後に分かれるが、利用者に気持ちよく入浴してもらえるよう湯をはりかえている。季節を味わえるよう入浴剤を替えてみたり、入る順番も替えたりと、ユニットリーダー達が職員と相談し合っって様々な試みを行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ユニット内の雰囲気落ち着かせるよう対応している。又、不眠者には日中の生活を見直すと共に、スムーズな睡眠を促すよう心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | カルテ内に処方等を綴っており、必要に応じて確認している。服薬が自立できない方には本人に合わせた支援を行なっている。(服薬確認、手渡し等) | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人出来ることは違うが、その人に応じた楽しみが見出せるよう配慮している。朝、夕新聞等を取りに行ったり、掃除、洗濯たため、食事作り、皿拭きの役割を持つ。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的に利用者の希望に沿うような配慮をしながら外出の機会を持つ。普段の買い物、書道(関連法人の事業所内)、散歩等の支援を行っている。 | 利用者の行きたい所への外出ができるよう、職員の配置を考慮し、支援をしている。気候のよい季節は毎月外出の日を設け、法人のバスや車で遠出をすることにも取り組んでいる。中庭でのティータイムなど、少しでも外気に触れる機会を作れるよう柔軟に対応している。 | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が出来る方には所持して頂いている。不可能な方やご家族から依頼があった場合は預かる事もあるが、基本的に外出時は本人にお金を渡し買い物の際は支払って頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は全て手渡ししている。電話の利用もご家族から本人に取り次ぎも行っている。自分で掛けれる人は掛けて頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 純和風ではないが和室も備え、照明も間接照明を基本として眩しさを感じさせない作りをしている。不快な音等には常に職員も気をつけるよう指導している。又、観葉植物を置き、落ち着いて過ごせるようにしている。 | 閑静な住宅街にある事業所の広々とした共用空間は自然光が差し込み、昼食後、利用者は職員と談笑しながらリビングでゆったりと過ごしている。廊下には椅子が置かれ、一人の時間を過ごせるような工夫もある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファ、和室、玄関先、ベランダ等少人数で集まるスペースを設けている。又、ホームにある畑での農作業や中庭での夕涼み、玄関先の植物の水やり等、気の合った利用者同士で過ごせるような場を提供している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、本人がお使いの物、お使いになっていた物をお持ち頂けるよう説明する。又、ご家族にも協力して頂き持ち込んで頂いている。 | 利用者の居室は、自宅で使っていたタンスやロッカーなどの調度品が持ち込まれ、生活の継続が感じられる。衣替えは家族が訪問時に行い、利用者の中身が分かりやすいよう、シールをはる工夫もされている。必要となった物品に関しては、家族に依頼して届けてもらっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや廊下等に手すりを設置(必要部位には設置を検討)、出来る限り残存機能を活かした自立支援を行う。又、日々食事も利用者との協力して作り、その工程を個々の能力に合わせて安全管理を行いながら行う。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2170700476 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 和光会 | | |
| 事業所名 | グループホーム「ファミリーケア北方」(ユニット2:南の家) | | |
| 所在地 | 岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地 | | |
| 自己評価作成日 | | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価票(ユニット2:南の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し遂行できるようにしている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 子供110番の設置、小学生のボランティア受け入れ等日常生活の中で子供が遊びに来やすい場を作る。又、自治会長の支援により地域活動に参加。地域の方々から畑を開放して頂きみかんやつくし狩り。祭りや運動会等地域イベントへの参加。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で北方の理念の報告、各種外出行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在の入居者状況、事業所独自の活動を報告。意見を求め、今後の取り組みを検討。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動への参加、各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員全員が拘束については、最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 顧客満足度調査を行なうことにより、苦情や希望を聞き対応している。又、重要事項説明書にて公的窓口を紹介し案内している。その他、契約時に説明を行い、玄関先に苦情受付ボックスを設置している。来所時にはご家族へこちらから声を掛け、話ができる雰囲気作りをしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティング等、各職員に説明し、職員の運営に対する意見が出来るようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人グループにある、もう一つのグループホームとの共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作る。本人自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願い、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(パワーリハビリ等)を提供する。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者で過ごす時間を大切に、その場の状況に応じて互いの理解を深め、関係を築いている。又、子供とふれあう行事を企画し、利用者が教える立場になり、子供達と交流を持つ機会の場を提供した。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に日頃の様子をご家族に報告。本人の現状を知って頂き、今後の方針を一緒に考えていく。都合により面会が困難なご家族には、月に一回は電話及び手紙を出し近況報告をしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出の際に馴染みの場所に寄り、昔を思い出して頂く。又、面会者への心くばりを行うことで、雰囲気作りに努める。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の配置や趣味の合う仲間作りを支援することでより良い関係作りが出来るような場所を提供し支援している。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者やご家族に、可能な限り北方での行事や法人内での行事に参加して頂けるよう連絡や通知を行なう。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式からの情報、本人の呟きやふとした仕草から把握に努めるようにしている。困難な場合はご家族にこれまでの状況を聞き、本人の気持ちになり考える。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との日常会話やご家族の面会時に、昔の話を聞いて把握に努める。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の記録に残し、職員全員が現状の把握が出来るよう努める。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人やご家族に意見を求め、その後ユニット内でのカンファレンスにて課題、ケアのあり方について話し合い、介護計画作成にいかしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の個別記録をカルテへ記入し、全職員が情報を共有している。その情報を介護計画見直しの際にいかしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 近隣に病院等連携施設があり、利用者の身心の状況等に合せて柔軟なサービスに努めるようにしている。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家庭菜園の手伝い、行事(落語研究会、大正琴等)の受け入れ、それに対する働きかけを行っている。近隣商店への買い物や、防災体制の構築の為に各機関(消防署等)との連絡も出来ており、地域防災協会にも加盟している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり看護職との連携、相談が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり、DrやNsとも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻りに面会している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 日頃から利用者の身心の異常の変化についてはご家族に連絡を行い、かかりつけ医及び法人内の病院のDr等と話し合うように努める。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内のNsの指示のもと、月に一回、医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもと実施。又、事業所での委員会を設置し、訓練等に職員の参加を働きかけている。利用者も共に訓練に参加して頂く。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日頃より、尊敬の念を持って対応している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃より、担当者を中心にコミュニケーションを図っている。難聴の方には筆談を行う等、利用者の状態に合わせて希望を聞く工夫をし、自己決定の支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースや希望を把握し、会話の中より一日一日をその人らしく生活出来るよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容に関しては、利用者やご家族の希望を尊重している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居時に嗜好調査を実施。日々、利用者と共に食事をし、その会話の中から好みを聞くよう努めている。又、準備や片付けも利用者の個々の能力に合わせて共に行っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 5色健康法(食事に白、黒、赤、黄色の食べ物を取り入れること)を実践している。又、法人内の栄養士の指導を受けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを促している。必要な利用者には介助を行い支援する。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別に排尿チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便はチェック表を確認している。普段から水分摂取に努め、便秘時は食物繊維を摂る等の対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者の要望に合わせて入浴時間を調整。日中の入浴を希望されている。入浴の順番はその都度利用者の都合に合わせて入浴をして頂いている(基本的に月、水、土) | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 不眠者には日中の生活を見直すと共に入眠前のホットミルクの提供等、スムーズな睡眠を促すよう心掛けている。又、ユニット内の雰囲気落ち着かせるよう対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | カルテ内に処方等を綴じており、必要に応じて確認している。服薬が自立できない方には本人に合わせた支援を行なっている。(服薬確認、手渡し等) | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人出来ることは違うが、その人に応じた楽しみが見出せるよう配慮している。掃除、洗濯たたみ、食事作り、皿拭きの役割を持つ。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的に利用者の希望に沿うような配慮をしながら外出の機会を持つ。普段の買い物、喫茶、散歩等の支援を行っている。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が出来る方には所持して頂いている。不可能な方やご家族から依頼があった場合は預かる事もあるが、基本的に外出時は本人にお金を渡し買い物の際は支払って頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は全て手渡ししている。電話の利用もご家族から本人に取り次ぎも行っている。自分で掛けれる人は掛けて頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 純和風ではないが和室も備え、照明も間接照明を基本として眩しさを感じさせない作りをしている。不快な音等には常に職員も気をつけるよう指導している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファ、和室、玄関先、ベランダ等少人数で集まるスペースを設けている。又、ホームにある畑での農作業や中庭での夕涼み、玄関先の植物の水やり等、気の合った利用者同士で過ごせるような場を提供している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、本人がお使いの物、お使いになっていた物をお持ち頂けるよう説明する。又、ご家族にも協力して頂き持ち込んで頂いている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや廊下等に手すりを設置(必要部位には設置を検討)、出来る限り残存機能を活かした自立支援を行う。又、日々食事も利用者や協力して作り、その工程を個々の能力に合わせて安全管理を行いながら行う。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 2170700476 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 和光会 | | |
| 事業所名 | グループホーム「ファミリーケア北方」(ユニット3:上の家) | | |
| 所在地 | 岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目88番地 | | |
| 自己評価作成日 | | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価票(ユニット3:上の家)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所独自の理念は「家庭的な環境と地域住民との交流の元で楽しい生活を提供すること」である。日々理念に基づく行動が出来るよう職員は理念を記入した用紙を名札に携帯し遂行できるようにしている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 子供110番の設置、小学生のボランティア受け入れ等日常生活の中で子供が遊びに来やすい場を作る。又、自治会長の支援により地域活動に参加。地域の方々から畑を開放して頂きみかんやつくし狩り。祭りや運動会等地域イベントへの参加。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で北方の理念の報告、各種外出行事や地域への活動予定を報告する。特定高齢者に対する介護予防事業への参加等。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在の入居者状況、事業所独自の活動を報告。意見を求め、今後の取り組みを検討。「地域にある施設」ということを理解して頂けるよう地についた運営、職員の力量の向上に努めるべきとの意見に地域活動への参加、各研修の参加を積極的に行い、向上に努めている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業所での行事等に対しても案内をお渡しし、参加の協力を頂く際、意見や理解を求め、事業所内のサービス向上に努めている。又、運営推進会議に出席頂き、意見を頂く。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員全員が拘束については、最低限してはいけないルールだと把握しており、行われたことはない。又、法人で行われる研修にも参加している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々職員は虐待に対して、してはいけない行為であると把握している。又、新人研修や法人で行われる研修に参加している。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、利用者に成年後見制度を受けている者はいないが、職員間で過去に制度を受けていた利用者の情報共有や研修等で制度的な理解を深め学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前には必ず事前訪問を実施。本人の状態を家族やケアマネジャー等から聞き取り、確認する。契約時には重要事項説明書を参照。料金の説明を実施。又、申込時はパンフレットによる概算の説明もある。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 顧客満足度調査を行なうことにより、苦情や希望を聞き対応している。又、重要事項説明書にて公的窓口を紹介し案内している。その他、契約時に説明を行い、玄関先に苦情受付ボックスを設置している。来所時にはご家族へこちらから声を掛け、話ができる雰囲気作りをしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 自ら法令集等に目を通し、リーダーミーティング等、各職員に説明し、職員の運営に対する意見が出来るようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | チャレンジシートを作成。各自の目標に対して一年間の服務、反省を行ない、半期に一度、管理者、計画作成担当者と職員との面談を行い、助言する。又、管理者は常に職員の悩み等を聞く努力をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各研修を法人内のプログラム中心に行い、必要に応じ事業所内でも行なっている。職員の立場等に応じ研修に参加したり、外に向けての発表も参加させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人グループにある、もう一つのグループホームとの共同の作業や訪問等を行っている。又、今後協議会を通じて同業者の担当訪問を提案している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回来所時より、施設契約・相談にて利用者の個々のニーズを聞く機会を作る。本人自身の不安や悩み事等も傾聴し受け止める努力をしている。利用までに幾度か訪問してもらいコミュニケーションを図っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回利用時より担当者をつけ、ご家族からの相談等に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回にて出来るだけ本人の来所をご家族に願い、利用者の身心の状態を見極め、ニーズに合うような事業所外でのサービス(パワーリハビリ等)を提供する。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と過ごす時間を大切にし、その場の状況に応じて互いの理解を深め、関係を築いている。又、子供とふれあう行事を企画し、利用者が教える立場になり、子供達と交流を持つ機会を提供した。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に日頃の様子をご家族に報告。本人の現状を知って頂き、今後の方針を一緒に考えていく。都合により面会が困難なご家族には、月に一回は電話及び手紙を出し近況報告をしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出の際に馴染みの場所に寄り、昔を思い出して頂く。又、面会者への心くばりを行うことで、雰囲気作りに努める。ご家族の了承があれば、ご友人と食事をされる等、馴染みの方々との関係を大切にしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 席の配置や趣味の合う仲間作りを支援することでより良い関係作りが出来るような場所を提供し支援している。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者やご家族に、可能な限り北方での行事や法人内での行事に参加して頂けるよう連絡や通知を行なう。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式からの情報、本人の呟きやふとした仕草から把握に努めるようにしている。困難な場合はご家族にこれまでの状況を聞き、本人の気持ちになり考える。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との日常会話やご家族の面会時に、昔の話を聞いて把握に努める。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の記録に残し、職員全員が現状の把握が出来るよう努める。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人やご家族に意見を求め、その後ユニット内でのカンファレンスにて課題、ケアのあり方について話し合い、介護計画作成にいかしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の個別記録をカルテへ記入し、全職員が情報を共有している。その情報を介護計画見直しの際にいかしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 近隣に病院等連携施設があり、利用者の身心の状況等に合せて柔軟なサービスに努めるようにしている。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 家庭菜園の手伝い、行事(落語研究会、大正琴等)の受け入れ、それに対する働きかけを行っている。近隣商店への買い物や、防災体制の構築の為に各機関(消防署等)との連絡も出来ており、地域防災協会にも加盟している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医を確認している。又、ご家族の希望の病院の利用案内をしている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり看護職との連携、相談が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 法人内に近隣の診療所、入院施設のある病院があり、DrやNsとも連絡、相談体制が出来ている。又、他法人への入院等の機会は頻繁に面会している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 日頃から利用者の身心の異常の変化についてはご家族に連絡を行い、かかりつけ医及び法人内の病院のDr等と話し合うように努める。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内のNsの指示のもと、月に一回、医療に関する委員会を開き、勉強会を行うようにしている。又、救急救命士による心肺蘇生等の研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法定の防災訓練を消防署職員立ち合いのもと実施。又、事業所での委員会を設置し、訓練等に職員の参加を働きかけている。利用者も共に訓練に参加して頂く。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日頃より、尊敬の念を持って対応している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日頃より、担当者を中心にコミュニケーションを図っている。難聴の方には筆談を行う等、利用者の状態に合わせて希望を聞く工夫をし、自己決定の支援をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースや希望を把握し、会話の中より一日一日をその人らしく生活出来るよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容に関しては、利用者やご家族の希望を尊重している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居時に嗜好調査を実施。日々、利用者と共に食事をし、その会話の中から好みを聞くよう努めている。又、準備や片付けも利用者の個々の能力に合わせて共に行っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 5色健康法(食事に白、黒、赤、黄色の食べ物を取り入れること)を実践している。又、法人内の栄養士の指導を受けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを促している。必要な利用者には介助を行い支援する。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別に排尿チェック表を作成し、パターンの把握を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便はチェック表を確認している。普段から水分摂取に努め、便秘時は食物繊維を摂る等の対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者の要望に合わせて入浴時間を調整。日中の入浴を希望されている。入浴の順番はその都度利用者の都合に合わせて入浴をして頂いている(基本的に月、水、土) | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ユニット内の雰囲気落ち着かせるよう対応している。又、不眠者には日中の生活を見直すと共に、スムーズな睡眠を促すよう心掛けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | カルテ内に処方等を綴っており、必要に応じて確認している。服薬が自立できない方には本人に合わせた支援を行なっている。(服薬確認、手渡し等) | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人出来ることは違うが、その人に応じた楽しみが見出せるよう配慮している。掃除、洗濯たたみ、新聞たたみ、食事作り、皿拭きの役割を持つ。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的に利用者の希望に沿うような配慮をしながら外出の機会を持つ。普段の買い物、書道(関連法人の事業所内)、散歩等の支援を行っている。 | | |

岐阜県 グループホーム ファミリーケア北方

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が出来る方には所持して頂いている。不可能な方やご家族から依頼があった場合は預かる事もあるが、基本的に外出時は本人にお金を渡し買い物の際は支払って頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は全て手渡ししている。電話の利用もご家族から本人に取り次ぎも行っている。自分で掛けれる人は掛けて頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 純和風ではないが和室も備え、照明も間接照明を基本として眩しさを感じさせない作りをしている。不快な音等には常に職員も気をつけるよう指導している。又、観葉植物を置いたり、利用者の作った物を飾ったりしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファ、和室等少人数で集まるスペースを設けている。又、ホームにある畑での農作業や中庭での夕涼み、玄関先の植物の水やり等、気の合った利用者同士で過ごせるような場を提供している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、本人がお使いの物、お使いになっていた物をお持ち頂けるよう説明する。又、ご家族にも協力して頂き持ち込んで頂いている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや廊下等に手すりを設置(必要部位には設置を検討)、出来る限り残存機能を活かした自立支援を行う。又、日々食事も利用者や協力して作り、その工程を個々の能力に合わせて安全管理を行いながら行う。 | | |